

POSA 事業報告

Project
Operation
Sight for
All

No. 25

●2022 年度



POSA 目次

手術症例数及びスクリーニング症例数・・・・・・・・・・・・・・・・ P1

理事長より _____

「真似をしてはいけないハイドロエクストラクション」

POSA 理事長 医療法人 輝秀会 くらとみ眼科医院 理事長 倉富 彰秀・P2

副理事長より _____

「3 年ぶりのアイキャンプ」 POSA 副理事長 熊本県 菊池眼科 理事長 井上 望・P4

名誉会員より _____

「POSA 活動のますますの発展を願い」 神埼市長 内川 修治・P5

国際エンゼル協会より _____

「3 年ぶりのアイキャンプ」

特定非営利活動法人 国際エンゼル協会 バングラデシュ事務局長 前田 泰宏・P6

特定非営利活動法人 国際エンゼル協会 バングラデシュ責任者 アジズル・バリ・P7

ライオンズクラブより _____

「未来へ向けて We Serve」 2022 年度 神埼ライオンズクラブ会長 佐藤 健一郎・P8

バングラデシュ ライオンズクラブ 地区ガバナー LN. A. B. M. Anwarul Baset・P9

アイキャンプ参加者より _____

「再訪の興奮と奮闘」 島根大学眼科講座 佐野 一矢・P10

「当たり前のことの再認識」 自治医科大学付属病院 眼科 長岡 広祐・P12

「バングラデシュふたたび」 芳賀赤十字病院 眼科 高橋 良太・P14

「アイキャンプに参加して」 琉球大学 眼科 照屋 快斗・P16

「アイキャンプを体験して」 日本大学病院 眼科 宮田 佳祐・P18

「アイキャンプに参加して」 菊池眼科 看護師 中村 るみ・P20

「アイキャンプの参加に感謝」 菊池眼科 看護師 佐伯 陽子・P22

「ただいまバングラデシュ」 菊池眼科 井上 歩実・P23

「Visit in Bangladesh」 Applied material senior engineer 呉 祥豪・P24

ふるさと納税による POSA への寄付と年会費・入会金納入のお願い・・・・・・・・ P26

ふるさと納税での POSA への寄付の方法・・・・・・・・ P27

ふるさと納税の返礼品・・・・・・・・ P28

2022 年度事業報告・・・・・・・・ P29

POSA アイキャンプ白内障手術の症例数・・・・・・・・ P30

2023 年度事業計画・・・・・・・・ P31

2023 年度 POSA アイキャンプの日程・・・・・・・・ P32

ご支援頂いた方の一覧表・・・・・・・・ P33

POSA 理事・監事・名誉会員・一般会員名簿・POSA 規約(一部抜粋)・入会のお願い・・・・ P34

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

手術症例数及びスクリーニング症例数につきましては下表。588 名のスクリーニングを施行し手術適応者が 170 名。実際には 170 名のうち 57%にあたる 97 名の方が手術会場であるコナバリのエンゼル協会に来られた。初日が 34 名。2 日目が 30 名。3 日目が 33 名でした。

20th Eye Camp of POSA-2022 International Angel Association Konanari, Gazipur

Patients Screening Program

Sl.NO	Date	Place	Male	Female	Total pts
1	22.10.22 Saturday	Boribari Boribari Islamia Dakhil Madrasha Kapasia Gazipur	110	164	274
2	22.10.22 October	Health Care Center Konabari Gazipur	50	89	139
3	29.10.22 Saturday	Fayez uddin Sarker Universal College Amraid Kapasia Gazipur	67	78	145
		Total	227	331	558

Selected Patients for Operation

Sl.NO	Place	Male	Female	Total
1	Boribari Boribari Islamia Dakhil Madrasha Kapasia Gazipur	40	35	75
2	Health Care Center Konabari Gazipur	19	17	36
3	Fayez uddin Sarker Universal College Amraid Kapasia Gazipur	28	31	59
	Total	87	83	170

Final Operation of POSA 20th Eye Camp -2022

Sl.NO	Date of Operation	Male	Female	Patients
1	04-11-2022	15	19	34
2	05-11-2022	23	7	30
3	06-11-2022	14	19	33
	Grand Total	52	45	97

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

「真似をしてはいけないハイドロエクストラクション」
POSA 理事長 医療法人 輝秀会 くらとみ眼科医院 理事長
倉富 彰秀

P-ECCE（計画的水晶体囊外摘出術）のエキスパートである現地バングラデシュ眼科医のミジャン先生には毎回大変お世話になっています。

今回もフェイコマシン（超音波手術装置）の故障により日本人の参加 Dr は P-ECCE（計画的水晶体囊外摘出術）での白内障手術を余儀なくされました。

Dr 井上の話によれば「スパイ大作戦」の冒頭シーンの様な大げさな煙とともにフェイコマシンの電源が落ちてしまったとの事でした。私は「ベンケーシー」のファンで「スパイ大作戦」を見たことがなかったので YouTube で検索してその雰囲気が良く分かりました。

さて、3 年ぶりに見た Dr ミジャンの P-ECCE はさらに進化し、改善されていました。創口を核の直径より 2mm 以上大きくする必要がありますが、ハイドロダイセクションをしながらそのまま核を娩出するという手技です。まず、ハイドロダイセクションで核を前房内に脱臼させます。その後核娩出時に核の下にあるハイドロ針を創口でわずかに下方に押し下げつつ、軽くハイドロをかけるのがコツとのこと。この時ハイドロ針先端はほぼ水平です。ここまでの操作で核の娩出ができない場合は、次のステップです。ハイドロ針（鈍針）を回転させて先端を上に向けることで、破囊の合併症を防ぎます。さらにハイドロ針先端を核の後面にひっかけて手前に引き出すことにより核の娩出が容易になるとのことです。（ハイドロ付リンヒに近い使い方です。）もちろん球後麻酔又は peribulbar 麻酔は必須です。



2 line の手術室

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

小さな核の P-ECCE 症例でハイドロダイセクションを行った場合、勢いでそのまま核の娩出が出来てしまったという経験をされた術者も多いと思います。その発展術式ともいえます。

Dr ミジヤンは術前の観察で核の大きさを判断し切開創のサイズをその場で決定し安全にハイドロエクストラクション（ハイドロダイセクション直後に）を計画的に行っていました。基本的には No suture ECCE（無縫合水晶体嚢外摘出術）です。P-ECCE を年間 2500 眼以上施行している Dr ミジヤンだからこそ出来る手技であり、安易に真似をしてはいけません。もし我々、P-ECCE ビギナーが P-ECCE を行う場合は基本にのっとり十分なサイズの切開創を作成し、核娩出後にすぐ結紮できるように前置縫合糸を数箇所置いておく。核娩出はコンプレッション法（又はリンヒ）にて丁寧に行う。ハイドロダイセクションで核を前房内に脱臼させておくことが望ましい。但し、核がさらに大きな場合は通常の P-ECCE を施行していました。

P-ECCE（計画的水晶体嚢外摘出術）が独自の進化を遂げているということに大きな驚きを感じた今回のアイキャンプでした。

さらに、急なフェイコマシンの故障に柔軟に対応し、初めて使うシムコ針をしっかり使いこなして P-ECCE を行っている若い先生方の姿を見て驚き、感動すら覚えました。

最後に、長年 POSA に貢献されている井上先生の娘さんがバングラデシュで結婚式をあげられました。心よりお喜び申し上げます。末永く幸せな人生を送られてください。



現地エンゼル協会の子供たち

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

「3年ぶりのアイキャンプ」

POSA 副理事長 熊本県 菊池眼科 理事長
井上 望

前回 2019 年は現地治安の問題で 3 年ぶりのバングラデシュアイキャンプだった。その後コロナ禍のため活動出来ず、今回も前回同様 3 年ぶりのアイキャンプとなった。前回もそうであったが、今回も手術で使用するほとんどの消耗品が期限切れで使えない状態で、すべて再度準備するのは労力と費用を要し大変であった。

今回アイキャンプの再開を決めた 2022 年 8 月は未だ海外渡航制限が解除されていない状況で、どれほどの人が参加していただけるか心配だった。しかし早々と佐野先生、長岡先生が手を挙げていただき、その後も宮田先生、看護師の中村さん、佐伯さんの参加希望があり一安心した。また照屋先生、高橋先生も参加して頂いたが、この両先生は以前医学部学生時代での参加があり、その後眼科医となって二度目の参加であった。POSA としては初めての事で、大変喜ばしい限りである。

POSA は九州佐賀県の NPO であるが最近の活動は自治医大関係の先生方に支えられいると言っても過言ではない。かなり以前から参加協力して下さっていた高橋雄二先生、堀秀行先生が蒔いてくださった種が最近実を結んでいると個人的に感じている。本当に感謝している。



右側が Dr 井上

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

「POSA 活動のますますの発展を願い」

POSA 名誉会員 神埼市長

内川 修治



新型コロナウイルスの流行が発生してから 3 年が経過しました。この期間、世界的に海外との往来が大きく制限され、国際ボランティア活動の実施も困難な状況にあったものと拝察します。

また、2022 年 2 月に始まったロシアによるウクライナへの軍事侵略は、世界に衝撃を与え、国際秩序と平和を根底から覆すものであり、断じて許されるものではありません。そのような中、POSA におかれましては、2022 年 11 月 4 日から 3 日間バングラデシュでアイキャンプを実施され、現地の困難な諸事情から満足な治療を受けられない人たちに白内障の手術や治療を行い、その視力を回復するとともに、社会復帰や自立の手助けをされました。

これまでのスタッフの皆様の高い志と献身的な活動は、現地の人たちにとって、まさに希望の「光」を与えるものであり、国際保健に大きく貢献するとともに、市民の国際協力への理解や促進に寄与されており、深く敬意を表します。

本市においては、小・中学校の児童生徒が「ふれあいボランティアパスポート」を活用したボランティア活動を積極的に行っており、家族の一員としての意識や、社会参加への意欲の芽生えなど、ボランティア意識のさらなる高まりがみられます。

今後も、次代を担う児童生徒はもちろんのこと、市民一人一人が他者や社会に貢献する活動を自発的に取り組むようなまちづくりを進めて参ります。

結びになりますが、この尊い活動が今後ますます発展されることを心からご祈念申し上げます。

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

「3年ぶりのアイキャンプ」

特定非営利活動法人 国際エンゼル協会 バングラデシュ事務局長
前田 泰宏

2019年にPOSAのアイキャンプを行ない、それからコロナウイルス感染の影響でバングラデシュへの渡航が不可能になり、その間ダッカ市内の眼科病院でPOSAから費用を出して頂き白内障手術を行なってきました。2022年今年は渡航も緩和され実に3年ぶりに日本の眼科医師によってPOSAのアイキャンプが実施されました。カパシア郡にある3ヵ所の村でスクリーニングを行なうと目に障害がある558名の患者さんが集まり、その中から170名の患者が白内障手術を必要で選ばれました。そして今回97名の患者が最終的に白内障手術を受けました。本当に村の人たちが日本の眼科医師がバングラデシュに来られることを待ち望んでいたことが分かります。白内障手術も無事に終わり、97名の患者さんの目が日常生活で家族のサポートも無く過ごすことが出来るようになりました。家族もPOSAの眼科医師、看護師、それに関わる皆さんに大変感謝していました。



現地眼科医による術前の診察

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

特定非営利活動法人 国際エンゼル協会 バングラデシュ責任者
アジズル・バリ

こんにちは。

今年 20 回の EyeCamp をサポートしていただきありがとうございました。世界で約 50,000,000 人が見えないことで困っています。その約半分の理由は白内障です。その半分の人が手術したら治せるはずです。わが国では 700,000 人が見えないで困っています。POSA のおかげで毎年大勢の農村の人々を助けてくださって心から感謝しております。これからもよろしくお願いいたします。

Md. Azizul Bari
Executive Director
International Angel Association
Konabari, Gazipur, Bangladesh



右端がバリさん

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

「未来へ向けて We Serve」
2022 年度 神埼ライオンズクラブ会長
佐藤 健一郎

長年にわたるアイキャンプ活動に対し、倉富先生をはじめ POSA スタッフの皆様、すべての関係者の皆様に心から敬意を申し上げます。

ライオンズクラブ国際協会は、1917 年に誕生してから 100 年以上にわたり、「世界中の人々への暮らしに影響を及ぼす人道奉仕と、交付金を通じて健康と福祉を改善し、恵まれない人々に支援を提供するとともに、平和と国際理解を促進できるよう、力を与える」という使命のもとに活動してきました。

しかし、世界の人口はこの 20 年で 60 億人から 80 億人へと増加を続け、食料問題や貧困問題などの多くの課題を抱えています。一方日本の人口は 10 年前より 250 万人減少し、今後も減少していくと推計されています。

神埼ライオンズクラブは、お陰様で今期結成 55 周年を迎えました。20 年前には 50 人を超える会員数でしたが、その後会員は減少傾向にあります。まだまだライオンズ歴も浅く年齢も一番若い私ですが、この若さを生かした創造力と行動力で、活気ある組織づくりと活動を行っていきたくと考えています。そして、この先 60 周年 70 周年へ向けて神埼ライオンズクラブが活発に活動を継続できるように、そして当クラブの代表的なアクティビティであるアイキャンプ活動の支援を続けていくことができるよう、尽力していきたくと思います。

最後になりましたが、POSA の皆様の益々のご発展を心より祈念申し上げます。



スクリーニングを待つ人たち

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

バングラデシュ ライオンズクラブ 地区ガバナー

LN. A. B. M. Anwarul Baset

District Governor
Lions Clubs International
District 315 B2, Bangladesh



Dear fellow Lions members of Kanzaki Lions Club, Japan. Hope all of you are fine.
The lions are active all over the world though the crises of COVID and on going war.

Thanks for your continuous support to arranged Eye Camp and cataract operation for the rural needy people of Bangladesh.

Japan is our best friend and development partner since independence of Bangladesh, December 1971.

Hope your support will be continued. My best regards to all Lions member in Japan. Be safe.

翻 訳

神埼ライオンズクラブのライオンズ会員の皆様、お元気でお過ごしのことと思います。
ライオンズは、COVID の危機と戦争が続く中、世界中で活動しています。
バングラデシュの田舎の困窮した人々のために準備されたアイキャンプと白内障手術へのあなた方の継続的な支援に感謝します。

日本は、1971 年 12 月のバングラデシュ独立以来、私たちの親友であり、開発パートナーでもあります。

今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。日本のライオンズ会員の皆様、よろしく願いいたします。ご安全に。

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

「再訪の興奮と奮闘」

島根大学眼科講座

佐野 一矢

「あー、こんなだった。」

3年ぶりに降り立ったダッカの空港。3年前と変わらない風景を見てどこかホッとした。空港からエンゼル協会への道の混み具合も相変わらず。あれ、このバイパスの工事、3年前にもやっていたような気がする・・・記憶を辿りながら車の窓から見える風景にいちいち興奮する。なんと言っても3年ぶりの海外で、しかもそれがバングラデシュなのだから仕方がない。

エンゼルホームに着くと、3年前と同じように子供達が笑顔で出迎えてくれた。ホッとすると同時にいよいよだな、という気持ちになる。私を含め日本人医師3名が先発隊で到着し、術前検査や手術室のセッティングを行う。なんせ3年ぶりなので物品の入れ替えや使えるものの選別をしなくてはならないのだが、現地エンゼル協会の職員さんや子供達が手伝ってくれ順調に準備を終えることができた。



1列目の右から3人目が Dr 佐野

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

翌日、無事本隊が到着し打ち合わせの後に手術を開始することになった。そしてここで問題が発生する。本隊が持参したフェイコマシン(白内障手術機器)が動かないのだ。いや、厳密に言えば一度は技術者による修理によって動いたのだが、それも束の間、機械から煙が上がり起動不能になってしまった。結果、その後の症例は水晶体囊外摘出術(ECCE)へのコンバートを余儀なくされた。ECCEは現地では多く施行される術式であるが、普段、超音波乳化吸引術(フェイコ手術)が主の日本人医師にとってはやや不慣れな手技である。もはや刀を奪われた侍・・・ではなかったのが今回の参加者のたくましいところで、時間はやや要するものの器用に水晶体を取り出して眼内レンズを入れていく。アルコールランプで鑷子を炙り止血、シムコ針で水晶体皮質を除去。昨今の日本の手術室では見ることがなくなった風景。機械の故障という不測の事態にも対応できたことに誇りを感じ自信を得ることができた今回のアイキャンプであった。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

「当たり前のことの再認識」

自治医科大学附属病院 眼科

長岡 広祐

前回 2019 年にアイキャンプに初参加後、コロナ禍の影響もあり 3 年ぶりに活動が再開され、無事参加することができました。今回は参加者のうち医師の割合が多く、視能訓練士がいない状況であり、手術自体は交代しながらうまく回すことができた一方、術前検査に多少手間取ってしまう状況でした。今回も様々なトラブルに見舞われながらも無事にやり切ることができ、安堵しております。

日本だけでなくバングラデシュ国内も含め、まともな医療が受けられる環境と比べると、アイキャンプは特殊な環境下での手術です。元々ほとんど見えていない人で、しかしまともな医療を受けられない人がアイキャンプによって治療を受けているわけですが、アイキャンプという観点で考えると、こちらが提供できる医療には限界があり、それを超えることはどうしようもなく、諦めなくてはならない部分もありますし、割り切る必要もあります。

一方で、まともでない環境で医療を提供する我々も、普段通りの実力を出すことが難しいことも事実です。しかし、充分でない環境だからといって、不十分な医療を提供するようなことはあってはならない、ということは言うまでもありません。

手術室・手術器具などの環境、人種の違い、言語・意思疎通など、さまざまな点で普段とは異なり難しい条件ではありますが、治療を受ける患者さん一人ひとりと同じ人間であり、緊張もするし、不安もあります。また、意思疎通ができないこと、名前も顔も知らない他国の人に手術をされるという点で、患者さんの不安は通常的环境で受ける手術よりも強いと思います。手術中に何かを訴えている患者さん、術後に痛かった、怖かったと泣いている患者さんを見て、患者さんの不安や緊張という当たり前のことを再認識しました。

このような環境での医療活動は経験としてはとても貴重なもので、気持ちも高揚します。しかし慢心せず、少しでも技術を上達させて過酷な環境下でも安定した医療を提供し続けられるようにしていくこと、普段通りに患者さんに対し真摯に向き合っていくことが大切だと、切に感じた今回のアイキャンプでした。

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

話は変わり個人的なできごとですが、バングラデシュから帰国後すぐの外来で、日本在住のバングラデシュ人の白内障患者を担当し、手術を執刀することがありました。たまたまでしたが帰国後すぐのできごとであり、バングラデシュに縁を感じた瞬間でした。滞在中の食事のカレーは相変わらず美味しく、毎食食べ過ぎて苦しい思いまでしました。今後も皆さんと美味しいカレーを食べつつ、活動が続けられることを願っています。今回もたくさんの方々にお世話になり、ありがとうございました。



後列の左から2人目が Dr 長岡

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

「バングラデシュふたたび」

芳賀赤十字病院 眼科

高橋 良太

この度、学生であった際に同行させていただいたバングラデシュに今回 Dr として初めて参加させていただくこととなりました。

父親と一緒に移動していた前回と違い、今回は一人で準備を行い、出発の 1 カ月前から空港の乗り継ぎや忘れ物がないかで緊張し、バンコクで他の参加者の方と合流できたときにはまだ初日なのに安堵でどっと疲れが出るほどでした。

ダッカにつくと、以前は赤茶色の土がむき出しで、砂漠のキャラバンがラクダで通るような道路だったのが舗装されてきれいになっていました。街頭もなく真っ暗だった空代わりに作りかけの高架道路がドーンと空を埋めており、その下には大量のごみや何も下に敷かずに寝転がっている人、日本では最近見なくなった野良犬がたむろしていました。鳴りやまないクラクションと車間距離ほぼゼロの運転は変わらず、ああ、こんなのだったなと変なところで懐かしさを感じました。

今回はコロナウイルスの蔓延による飛行機のスケジュール変更があり全日程に参加することができず、手術は 2 日のみの参加となりました。手術 1 日目は超音波乳化吸引術で手術を行いました。当初起動に手間取るものの、動いていた超音波乳化吸引術の機械でしたが、手術中カルメ焼きのような甘く香ばしいにおいを出しており、大丈夫かな？と思っていた矢先、その日の夜に煙を吹いて動かなくなりました。2 日目からは超音波乳化吸引術から ECCE へ術式を変更して手術を行いました。一件あたりの手術時間が増しましたが、ボランティアで参加していただいているバングラデシュ人医師のミジャン先生の助けもあり、患者全員の手術を終えることができました。前回の手術の際にあった焼灼止血のためのアルコールランプは今回も存在感を放っており、実際に使わせていただくことができました。手術中にランプの火が消えて現地スタッフにアルコールランプの芯を急いで変えてもらうことを体験できるのはおそらく他にはないでしょう。

以前のバングラデシュはレンガを焼く工場や道路わきにまばらにある屋台、土煙を上げて走るたくさんの車といったどちらかというと素朴な印象を強く感じていました。しかし 10 年たった今では、素朴な印象そのままの区画のすぐそばに派手なネオンや大企業の看板がでかでかと掲げてある区画があったり、ぼろをまとった人とおしゃれなパンツと

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

シャツを着た人が混じって歩いていたりで以前よりもさらにカオスでテーマパークのような印象を受けました。少し調べたところ、ダッカの人口密度は 3～4 万人/km²、ディズニーランドが 0.5 km²で一日入場数が 2～4 万人であることを考えると、人口密度の高さだけでなく、非日常的な体験をできることから毎日がディズニーランドといっても過言ではないでしょう。日常に飽きてしまい刺激を求めるならば、バングラデシュを一度訪れてみるとよいのではないのでしょうか。



Dr 高橋「手術の合間に現地の出前散髪をお願いしました。」

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

「アイキャンプに参加して」

琉球大学 眼科

照屋 快斗

私の父親は眼科医で井上先生と大学時代の同級生で母が視能訓練士という事もあり
2013 年、当時医学生だった時に母と弟と共にアイキャンプに参加させて頂きました。以
来、もう一度行きたいという思いがあったものの、なかなか機会がありませんでした。
今回井上先生から、コロナで2年間開催出来ていなかったアイキャンプが復活するとの
連絡を母から通じて頂き、ぜひ参加したいと思いました。

朝1人で宿舎からヘルスケアセンターに向かっていた時、どこからともなく子供達が
集まって来て、僕の手を取り手術室に案内してくれました。その愛くるしい純粋な表情
を見た時に、「ああやっぱり来て良かった」という思いが込み上げました。2013年と今と
では時代も変わり、僕自身の状況も医学生の頃とは色々な意味で変わりましたが、あの
エンゼルハウスの中の暖かい空気感は本当にそのまま、時間が止まっている様にそこに
ありました。眼科医として地元の大学病院で忙殺される日々の中、忘れてしまいがちな
ものがそこにあった気がしました。

大学病院ではなかなか経験出来ないような症例や術式を目の当たりにし、眼科医とし
ても成長出来ましたが、それと同じかそれ以上にあの場所の人達との関わりが大切な経
験となりました。機会があれば、または是非参加したいです。

井上先生、倉富先生を始め参加された先生方、看護師のお二人に心から感謝します。あ
りがとうございました。



術後の患者さんとバリさん

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



術後の患者さんとお手伝いの子供たち

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

「アイキャンプを体験して」

日本大学病院 眼科

宮田 佳祐

この度初めて海外での医療ボランティアに参加させて頂きました。
コロナ禍のため海外渡航の手続きも大変でしたが、無事に入国することができ、貴重な体験をさせて頂くことができました。

ボランティアのためバングラデシュに渡航するとお話すると心配されて止められることが多く、「せっかくいいことをしようとしているのに死んじゃったらかわいそう」と言われたときは内心では不安を感じる部分もありました。

しかし、実際に現地に到着してみると、施設で触れ合うエンゼルホームの子供たちやスタッフの方はとても優しく出迎えて下さり、施設の外で出会う現地の方も、笑顔で手を振ってくれたりと親しみやすい雰囲気で、楽しい時間を過ごすことができ、色々覚悟をしてバングラデシュに行きましたが、今にして思えばとりこし苦労でした。子供たちとは、日本から持ってきたけん玉や、ボードゲームで仕事終わりに一緒に遊び、帰国の際には別れを惜しんでくれて、もっと長く滞在すれば良かったとも思いました。施設で頂いたカレーもとても美味しく、日本に帰ってきてからもバングラデシュのカレーが食べたくなる時があります。

ボランティア活動の内容としては、白内障手術の執刀および助手、術前術後の検査を担当させて頂きました。普段の自分の職場ではほとんどの症例を超音波乳化吸引術で手術を行っており、水晶体囊外摘出術(ECCE)を行う機会は滅多にありませんでしたが、渡航を決めてからはECCEの手技をひたすら学び、実際にボランティア活動の場で多少なりとも貢献できたことは嬉しく思います。見えるようになって喜んでいた現地の方々の顔を思い出すと、今後も患者さんのお役に立てるよう、より一層努力していきたいと思えます。

貴重な機会を下さいました POSA の皆様、一緒に参加させて頂いた先生方、スタッフの方々にこの場を借りてお礼申し上げます。

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



左列の手前から2人目が Dr 宮田



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

「アイキャンプに参加して」

菊池眼科 看護師

中村 るみ

数年前から当院の井上院長から声をかけてもらっていましたが、二人の子育て中だった事、活動に自信がない事、また現地の治安が悪い時期でもあり参加を躊躇していました。食事は毎食カレーと聞いていましたので、胃腸の弱い私にはプレッシャーがあり、今回もなかなか返事ができずにいました。

しかしある日、井上先生と以前勤務していた看護師の佐伯さんと3人での時、先生が佐伯さんにアイキャンプへの参加を誘われました。佐伯さんは、「はい、行きます。行かせてください。」と即答され、その時、私も背中を押された気持ちになり勇気を出して参加を決意しました。

久しぶりの海外渡航で飛行機での長時間のフライトや乗り換えの待ち時間等で長旅でしたが、一緒に参加した佐伯さんとの会話も弾み、おかげでその時間も苦になることはありませんでした。ダッガ空港に夜中に到着し、エンゼル協会までの道路は想像以上に通行量が多く、クラクションの音が鳴り響いても大人と子供達も平気で道路を横断し、路面もガタガタで驚きました。

翌朝から、手術がはじまりました。私は、物品出し、器機出し、器機の洗浄、滅菌業務を担当しました。コロナ禍で日本からのアイキャンプへの参加が3年ぶりという事もあり、物品の期限切れも多く、使用不可能な物は他で代用してもらった事になりました。手術の途中、日本から持参したフェイコマシン（白内障手術器機）が故障するなどのトラブルが起きましたが、医師や他のスタッフのおかげで無事に手術を終える事ができました。

現地2日目は、手術待ち患者さんの表情を見て緊張されている様子がわかったのですが、上手く声掛けをすることができずに不甲斐ない気持ちになりました。手術が終わった夜には滞在施設であるエンゼル協会の方々によるセレモニーがありました。子供達の澄んだ瞳や踊りを観ると心が洗われました。同行した佐伯さんも舞台上がり、自慢の歌声を披露しました。楽しい時間を過ごしました。

現地3日目の手術後に佐伯さんが準備した折り紙を子供達と一緒に折りました。私達が折り紙を教えていると折り方を覚えた上級性が下級生の子供達にやさしく教える姿を見て感心しました。子供達の無邪気な姿や一生懸命に話しかける姿を見て、私も今、自分にできる事を精一杯頑張ろうと勇気と元気をもらいました。参加した看護師の数が少なく当初は心配でしたが、先生や現地の子供達が最後まで物品の片づけや清掃等を手伝ってくれました。

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

今回 3 日間で 97 名の白内障手術を無事に終えることができました。アイキャンプに参加して、日本の恵まれた環境のもとで手術の介助ができることは幸せなことだと改めて感じました。井上先生がアイキャンプへ行く前に「このアイキャンプに参加する人達は、手術をしてあげるとの気持ちで来てはいない。現地で白内障手術をさせてもらっているとの思いで参加している。」と話されていた意味が深く理解できました。

文末になりましたが素晴らしい機会を与えてくださった POSA 理事長の倉富先生をはじめ、他の医師やスタッフの皆様へ感謝しています。本当にありがとうございました。



右から二人目が看護師の中村さん

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

「アイキャンプの参加に感謝」

菊池眼科 看護師

佐伯 陽子

バングラデシュ行きませんか？POSA の副理事長である菊池眼科の井上先生からの予期せぬ突然のお誘いに、これは何かの思し召し？思えば 16 年前に好奇心と勢いで行った時とは全く違う感情が込み上げてきて、いろんな意味で是非同行させていただきたいと強く思い、その場で主人に電話で確認し快諾してくれ決めました。しかし、長らく医療現場を離れており、私に務まるのかと不安はありましたが、やれる事を精一杯やろうと決め、ワクワクが止まりませんでした。とはいえ世の中は新型コロナウイルス感染症のパンデミック後の不安定な世界情勢で、事実、親を始め友人は積極的に賛成してくれませんでした。以前から友人でもあった中村看護師と共に参加できることも大きな支えとなり迷いはありませんでした。

現地に着くやいなや、夜中にもかかわらず車の渋滞と鳴り止まないクラクション。道路は舗装されて良くなっていましたが、変わらずスリルのある道中でした。エンゼル協会のスタッフの方々や子どもたちの変わらぬ笑顔、毎回美味しいカレーや敷地内の庭や動物たちに心を癒されて、3 日間の手術のお手伝いも自分なりに満足のいくものになりました。

そして何よりも井上先生始め、全国各地からここに来られていた先生方のお考えや姿勢はあらためて人として尊敬できるお姿だなと感じ、その方々と一緒にアイキャンプに参加できた事に心から感謝いたします。ありがとうございました。



左側が看護師の佐伯さん

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

「ただいまバングラデシュ」

菊池眼科
井上 歩実

今回アイキャンプへ参加させていただきました、井上歩実です。初めてバングラデシュに行ってから 10 年以上になり、流れる月日と共にこの目でバングラデシュの発展を見届け、私自身も成長させてくれた 10 年間でした。コロナの影響で近年は渡航が厳しく制限され歯痒い思いをしていたものの、今回は台湾から夫と一緒にバングラデシュへ行くことができました。

医療を通してこの国に貢献したいと思う方々の気持ちが長い年月 POSA アイキャンプを続けられた証だと再確認した次第です。初めて参加した小学生の時は手術前緊張した面持ちでいた患者さん達で、英語を話す人はいませんでした。しかし 2022 年の去年は英語で私達に感謝の気持ちを述べられたり、コミュニケーションを取ろうとしてくれる姿にバングラデシュの発展を感じ、同時に非常に嬉しい気持ちになりました。私も今後さらにバングラデシュの発展を手助け出来るような国際人材になれるよう日々努力をしていきたいと思います。

最後になりましたが、今回サポートをしていただきました倉富先生、並びに各医療関係者皆様に御礼申し上げます。



右側が井上さん

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

「Visit in Bangladesh」

Applied material senior engineer

WU HSIANGHAO 吳 祥豪

This was my first time visit in Bangladesh, I think most of Taiwanese don't know where is this country at or even never heard it just like me. Be honest, I was shocked when I stepped in Bangladesh, I've never seen such a messy country in my life, I've been several countries regardless business or personal trip. But everything changed in Angle house. You can see it's a well-managed park, children and staffs there won't leave litter in Angle house. Mr. Bali told me about the history of this institution, how he knew Yuriko san, and how she take over her jobs and spirit of taking care children and patients that really needs help. In the meantime, I also asked fellow eye doctors from Japan, why do they want to be here for free surgery? Did they know Yuriko san for a long time? Most of them didn't meet her before, the reason they came here just want to help those patients. I stayed there for 3 days and I believed this medical team performed more than one hundred surgery, it must be overloaded for those doctors, but at the end of day, you can tell the feeling of satisfaction from their face. In the other hand, the children at Angel house also did the great jobs to assist this medical campaign, they guide elders in hospital and take care of them after surgery. That was the beauty of humanity I've never seen, so I'm fulfill with this trip and I will look forward to it again.

翻 訳

私にとってバングラデシュを訪れるのは初めてでした。私を含め、ほとんどの台湾人はこの国がどこにあるのか知らない上に、国名さえ聞いた事がないと思います。ダッカ空港からバングラデシュに足を踏み入れたときは本当にショックでした。私はこれまで出張や旅行で多くの国を訪れましたが、人生でこれほど混沌とした国を見たことはありませんでした。

でも滞在先のエンゼルハウスではすべての印象が変わりました。よく管理された広い庭で、子供たちやスタッフにより清潔に保たれていました。現地責任者のバリさんはこの施設の歴史、創始者である百合子さんとの出会いを語ってくれました。そして彼女の仕事を引き継ぐこと、本当に助けを必要としている子供や患者をケアする精神について教えてくれました。

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

私は日本の参加した眼科医になぜ彼らはここで無報酬手術を行うのか尋ねました。皆さんは百合子さんに会ったことがなく、彼らがここに来た理由は単に患者を助けたいからの事でした。私はそこに 3 日間滞在しましたが、この医療チームは 100 人弱の手術を行いました。医師にとっては身体的負担が大きかったに違いありませんが、一日の終わりにはその顔から満足感が伝わってきました。一方、エンゼルハウスの子供たちもこのアイキャンプを支援するために素晴らしい仕事をしました。彼らは病院で年老いた患者さんを導き、手術後眼帯のため見えない患者さんの世話をしていました。それは私が今まで見たことのない人間の美しさでした。私はこのアイキャンプ参加に満足していて、再度訪問できる事を楽しみにしています。



左側が呉さん



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

『ふるさと納税による POSA への寄付と年会費・入会金納入のお願い』

平素より POSA 活動のご理解ご協力有難うございます。
ご存知の様に POSA は皆様方の寄付金や年会費により活動しています。
POSA は佐賀県ふるさと納税対象団体に指定されています。つきましては同制度を利用して POSA へのご寄付をご考慮して頂ければ幸いです。

※佐賀県在住の方でも寄付は可能です。(返礼品はないですが、寄付金控除はあります。)
佐賀県以外に在住の方の場合は寄付金控除と返礼品いずれも可となります。

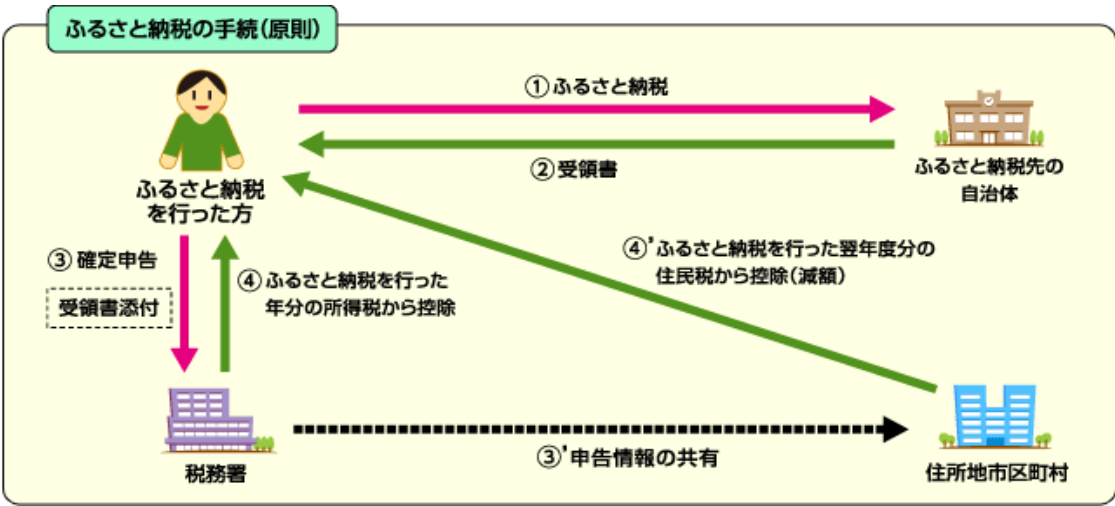
☆1. ふるさと納税は※寄付金控除の対象となります。
※寄付金控除とは納税者が国や地方公共団体等に寄付をすると受けられる所得控除と税額控除のことです。

※総所得の 40% までの寄付金が所得控除となります。
☆2. さらに住民税の 2 割までの寄付額については、有利な条件で控除を受けることが出来ます。

※ふるさと納税寄付金の 2,000 円を超える金額すべてが翌年の住民税から減免されます。
※確定申告もしくは「ワンストップ特例制度」の申請が必要となります。
※ワンストップ特例制度は次の 2 つの条件を満たせば、利用できます。

- ①もともと確定申告をする必要のない給与所得者等であること
- ②1 年間の寄付先が 5 自治体以内であること

POSA にふるさと納税として頂いた寄付金はアイキャンプにて現地の白内障手術の為の経費に充てられます。収支は POSA のホームページでも公開し経理の透明性を保っております。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

『ふるさと納税での POSA へのご寄付の方法』

○クレジット決済・郵便振替ご希望の方

1. Google などのインターネットで「ふるさとチョイス」を検索。
2. 「ふるさとチョイス」のホームページをクリック⇒「地域さがす」をクリック
3. 「佐賀県」をクリックするとそのページの少し下にある「佐賀県 NPO 支援ページはこちら」をクリック、出てきたページの右側にある「使い道」をクリック、そのページのほぼ一番下（下から 2 番目）に POSA があります。その中で返礼品を選択してください。金額も自由に選べます。
4. 「寄付へ進む」をクリック
5. 「この自治体の申し込みへ進む」をクリック
6. 会員登録がお済みの方は「ログイン」をクリック、お済みでない方は「会員登録して寄付する」か「会員登録しないで寄付する」をクリック
7. ○ 1) 特定非営利活動法人 POSA の「○」をクリックして「次へ進む」をクリック
8. 必要情報の入力をして「次へ進む」をクリック
9. 申し込みオプションの設定に必要事項を記入。
※ふるさと納税は確定申告をする必要があります。
但し、条件を満たせばワンストップ特例制度という確定申告が不要の制度を利用できます。
※ワンストップ特例制度をご利用の方は、「希望する」に必ずチェックを入れてください。
申告特例申請書が送られて来ますのでご記入の上、必ずご返送下さい。
10. 「確認へ進む」をクリックし、入力内容を確認する。
11. 申し込み確認事項を読んでいただき問題がなければ、「上記に同意する」にチェック
12. 「申し込みを確定する」をクリック⇒完了
POSA 会員にご入会頂いた皆様は、今後は入会金（10,000 円）や年会費（10,000 円）の納入もふるさと納税制度を利用されますと個人の自己負担は少なくなります。
入会金や年会費納入の場合は・・・その他 佐賀県へのメッセージの欄に {寄付金、入会金、寄付金} のうち該当するものをご入力下さい。（複数可）
例：寄付金 30,000 円、年会費 10,000 円

○クレジット決済・郵便振替以外をご希望の方

1. Google などのインターネットで「ふるさと佐賀県応援サイト」を検索
2. 「ふるさと佐賀県応援サイト/佐賀」のホームページをクリック⇒「お申し込みのご案内」をクリック
3. 「ふるさと納税（NPO 支援）お申込みフォーム」をクリック
4. 「3. 金融機関での振り込みを希望される方」の「ふるさと納税（NPO 等の支援）お申込みフォーム」をクリック
5. 必要事項を記入⇒「入力内容確認」をクリック⇒「送信する」をクリック⇒完了

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

ふるさと納税の返礼品

自然豊かな多良岳の環境で、健康に育て上げたこだわりのブランド豚「金星佐賀豚」です。金星佐賀豚の特徴は、ドリップが出にくく、脂身がギュッと詰まった肉質は、高品質できめ細かく、口に入れると豚肉が持つ旨味が口の中に広がります。

くらとみ眼科医院ホームページ：<http://kuratomiganka.com/>

POSA ホームページ：<http://www.posaoffice.net/>をご参照ください。

金星佐賀豚 100%のハンバーグセット
(寄付金 1 万円につき 1 セット)



金星佐賀豚 100%のハンバーグと生ウインナーのセット
(寄付金 1 万円につき 1 セット)



ご家庭で一番使い勝手の良い、切り落とし (300 g) をお付けした金星佐賀豚 100%のハンバーグと生ウインナーの金星セット
(寄付金 1 万円につき 1 セット)



金星佐賀豚ロース (生姜焼き用) 250 g と金星佐賀豚バラ (薄切り用) 250 g のスライスセット
(寄付金 1 万円につき 1 セット)



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

2022 年度事業報告

〈バングラデシュ眼科診察及びスクリーニングアイキャンプの実施〉

実施期間：2022 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日まで

実施場所：バングラデシュ国インターナショナルエンゼルアソシエーション
(IAA) 本部クリニック施設にて

派遣員：現地眼科医及び現地スタッフ

〈バングラデシュアイキャンプの実施〉

派遣期間：2022 年 11 月 3 日から 2022 年 11 月 11 日まで

実施期間：2022 年 11 月 3 日から 2022 年 11 月 7 日まで

実施場所：バングラデシュ国インターナショナルエンゼルアソシエーション
(IAA) 本部クリニック施設にて

派遣員：11 名

眼科医：7 名 倉富 彰秀 井上 望 佐野 一矢 長岡 広祐 高橋 良太
照屋 快斗 宮田 佳祐

看護師：2 名 中村 るみ 佐伯 陽子

一般：2 名 井上 歩実 呉 祥豪

活動内容：現地の眼科疾患の症例及び 588 名の患者さんを対象としたスクリーニ
ングアイキャンプ及び 97 名の白内障手術を実施。

国内啓発活動：バングラデシュアイキャンプへの寄贈品、募金
：バングラデシュの現状についての啓発活動



術後の患者さんとバリさん

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

POSA アイキャンプ白内障手術の症例数

	実施年	実施場所	手術など	症例数
第 1 回	1995 年 2 月	インド	白内障手術	37 眼
第 2 回	1995 年 12 月	インド	〃	99 眼
第 3 回	1996 年 12 月	インド	〃	125 眼
第 4 回	1997 年 12 月	インド	〃	184 眼
第 5 回	1998 年 12 月	インド	〃	184 眼
第 6 回	1999 年 12 月	インド	〃	127 眼
第 7 回	2000 年 12 月	バングラデシュ	症例調査 スクリーニング	0 眼
第 8 回	2001 年 12 月	バングラデシュ	白内障手術	13 眼
第 9 回	2002 年 12 月	バングラデシュ	〃	55 眼
第 10 回	2003 年 12 月	バングラデシュ	〃	86 眼
第 11 回	2004 年 12 月	バングラデシュ	〃	81 眼
第 12 回	2005 年 12 月	バングラデシュ	〃	61 眼
第 13 回	2006 年 12 月	バングラデシュ	〃	75 眼
第 14 回	2007 年 12 月	バングラデシュ	〃	73 眼
第 15 回	2008 年 12 月	バングラデシュ	〃	63 眼
第 16 回	2009 年 12 月	バングラデシュ	〃	88 眼
第 17 回	2010 年 12 月	バングラデシュ	〃	102 眼
第 18 回	2011 年 12 月	バングラデシュ	〃	105 眼
第 19 回	2012 年 12 月	バングラデシュ	〃	107 眼
第 20 回	2013 年 12 月	バングラデシュ	〃	103 眼
第 21 回	2014 年 2 月	バングラデシュ	〃	123 眼
第 22 回	2017 年 2 月	バングラデシュ ダッカライオンズ病院	〃	55 眼
第 23 回	2018 年 2 月	バングラデシュ ダッカライオンズ病院	〃	82 眼
第 24 回	2018 年 11 月	バングラデシュ ダッカライオンズ病院	〃	40 眼
第 25 回	2019 年 11 月	バングラデシュ	〃	96 眼
第 26 回	2021 年 11・12 月	バングラデシュ ダッカライオンズ病院	〃	70 眼
第 27 回	2022 年 11 月	バングラデシュ	〃	97 眼
			合計	2,331 眼

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

2023 年度事業計画

〈 Bangladesh 眼科診察及びスクリーニングアイキャンプの実施〉

実施期間：2023 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日まで

実施場所： Bangladesh 国インターナショナルエンゼルアソシエーション
(IAA) 本部クリニック施設にて

派遣員：現地眼科医及び現地スタッフ

〈 Bangladesh アイキャンプの実施〉

派遣期間：2023 年 11 月 22 日から 2023 年 11 月 28 日まで

実施期間：2023 年 11 月 24 日から 2023 年 11 月 26 日まで

実施場所： Bangladesh 国インターナショナルエンゼルアソシエーション
(IAA) 本部クリニック施設にて

派遣員：日本からの眼科医師及び看護師及び視能訓練士及び一般参加

国内啓発活動： Bangladesh アイキャンプへの寄贈品、募金

： Bangladesh の現状についての啓発活動



術後の患者さん

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

2023 年 POSA アイキャンプ日程

11 月 22 日（水）日本各地発バンコク行きバンコク宿泊又は深夜 24：20
早朝バンコク着

11 月 23 日（木）（祝）10：55 バンコク発 12：30 ダッカ着 手術準備

11 月 24 日（金）手術 1 日目

11 月 25 日（土）手術 2 日目

11 月 26 日（日）手術 3 日目

参加者希望に応じて 11 月 26 日（日）～11 月 28 日（火）の間で各自帰国の途へ

お問い合わせ先：POSA 日本事務局 くらとみ眼科医院

〒842-0002 佐賀県神埼市神埼町田道ヶ里 2435-1

TEL：0952-52-8841 FAX：0952-52-8685

E-mail アドレス：posa@train.ocn.ne.jp

（担当者：田中）



術後の患者さん

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

暖かいご支援ありがとうございました。

敬称は省略させていただきます。(順不同)
紙面の都合上、掲載されていない方もおられます。ご了承ください。

2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日

【寄付者】

菊池眼科募金箱に寄付していただいた患者様 松川 文江様 杉田 貞治様 杉田 陽子様
くらとみ眼科募金箱に寄付していただいた患者様



術後の患者さんと家族

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

POSA 理事・監事

理 事 長	倉 富 彰 秀	(医療法人 輝秀会 くらとみ眼科医院 理事長)
副理事長	井 上 望	(医療法人 菊池眼科 理事長)
理 事	八 谷 克 幸	(佐賀県会議員)
理 事	橘 光 幸	(橘商事 代表)
監 事	末 永 博 義	(末永司法書士事務所 代表)
監 事	峰 悦 男	(峰公認会計士事務所 代表)

(順不同)

POSA 名誉会員

名誉会員	山 口 祥 義	(佐賀県知事)
	中 尾 清 一 郎	(佐賀新聞社 社長)
	内 川 修 治	(神埼市長)

(順不同)

POSA 一般会員

芥川 泰生	井上 麻記	枝光 理	各務 晃子	小森 啓範
佐野 一矢	砂原 伸彦	世戸 憲男	高橋 雄二	高橋 良太
瀧本 峰洋	照屋 武	照屋 邦子	長岡 広祐	中村 るみ
秀島 正博	福島 武	堀 秀行	森岡 千鶴子	山口 克宏
吉田 幸代	與那嶺 豊	(株)神埼薬局	(株)日本点眼	(株)毛利工務店

(順不同)

POSA (ポサ) 規約 (一部抜粋)

(目的)

第 3 条 本会は、眼科衛生学に関する知識の普及及び白内障・緑内障に対する研究・ボランティア活動を行い、視覚障害者の減少に寄与することを目的とする。

(入会金及び会費)

第 7 条 正会員は、入会金壹万円、及び年会費壹万円を納入しなければならない。

POSA 一般会員入会を随時受け付けております。ご連絡下さい。
(POSA 事務局 TEL:0952-52-8841 田中)

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



現地眼科医による術後の診察



術後の患者さん

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



スクリーニングを待つ人たち

Project Operation Sight for All

P O S A 事 務 局

〒842-0002 佐賀県神埼市神埼町田道ヶ里 2435-1

医療法人 輝秀会 くらとみ眼科医院

TEL : 0952-52-8841 FAX : 0952-52-8685

ホームページアドレス <http://www.posaoffice.net/>

E-mail アドレス posa@train.ocn.ne.jp

2023 年 3 月 発行